

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

新 賀

日付 平成 20年 3月 4日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成12年4月設立で、グループホームとしては草分け時代から8年目を迎えた。我が国における認知症ケアに関しては指導的立場で、ホームの運営についてもモデルケースとして関心を高めてきたであろう。『その人らしく最期まで、一人ひとりの思いに応えた生活を大切にする』という理念は一貫して、すべての職員が理解し、日々の行動に理念を実現する姿を見ることが出来る。職員は採用後の教育と老健での研修及び就労後一定期間のケアの体験を経て、ホームに配属された職員のみで構成している。従って同じ勤務体制でローテーションしているので、少ない精鋭の職員で構成されている。意思疎通も出来、責任感の高いサービス提供ができてきているのだらう。

平成13年から、3つのホームの総括管理者が現在まで継続就任しており、現在の主任もずっとこのホームに勤務して、昨年主任に就任して、新しいカラーを出している。同じ方針、同じケアスタイルでも、ホームの雰囲気は利用者と職員の間構成で形成されるので、それぞれのホームで異なるし、リーダーによっても特長は出ていると思う。「母の体験と思いやりの心」でチームワークづくりをしていると主任の言葉から暖かさを感じた。しかし、職員同士は「きびしい事が言い合える。何事にもけじめをつけられる行動をする」が、職員サイドから見れば働きやすい職場であるとも説明してくれた。職員はあらゆる事を共有して、全職員が同じ目線で見れるよう見解の統一をしている。又、家族に対してはどの職員でも同じように説明できるようにしている。コミュニケーションを大切にしている。これらは全員参加で行う職員ミーティングで話し合う中から磨き上げられるのだらう。

このホームでは「ターミナルケア」を重要な課題としている。職員と家族が和気あいあいと看取れるよう、職員達で良く話し合っている。

既に2人の看取りをした。1人は医療措置の関係で病院に送ったため、ホームの看取りが叶わなかった惜しさが職員と家族に残ってしまった。現在もターミナルケアの状態になっている人がいる。家族は、このホームで最期まで世話してもらいたいと願っているし、職員も一緒に見ていきたいと気持ちは常に一致している。

新しい利用者が入ると、先ず初めて来る時は、職員は笑顔でようこそと迎える気持ちが伝わるよう、本人や家族との心の通い合いを大切にしている。そして、家族がホームのスケジュールを知り、その人の予定に入れてもらえるよう、それぞれの家族を巻き込む努力をするそうだ。

管理者・主任と職員が家族と共に、このような方針で利用者に優しいグループホームにしていく努力を続けており、今日の新賀を築いていることが確認できた。

特に改善の余地があると思われる点

主任に新しく就任し、今までに築き上げてきた職員達と新しいグループホーム全体の雰囲気づくりをしていくことになるが、介護は人間味の実現にあると思うので、新しく暖かいチームケアを目指してもらいたい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 理念は当初から策定され、ホームの中に掲示されており、誰でも見る事ができる。職員も理解している。当然改善する事はないが、毎日の生活、ケアにどう活かしていくか、日々工夫を続けている。</p> <p>2. 全体的に見て…: 「人が人らしく生きるサポート～人らしい生活～人の望むこと(おしゃれ、趣味等)を活かしてあげる～職員が笑顔で接する～」を理念として、職員の皆さんは一人ひとりの利用者の方々に接している。</p> <p>このホームで最期まで暮らしたいという希望と住める状態が整っているならば、管理者や職員はずっと一緒に生活してもらおうという気持ちがあり、最期の住家として選べる事は、利用者や家族にとって最高の喜びである。こんなホームにしていこうと頑張っている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 9人のホームで、上下2階に4人と5人が住むという空間づくりであるが、この建物をうまく使っていることが、このホームの特長である。</p> <p>2. 全体的に見て…: 以前は、上下2階に4人と5人の利用者が固定化されている時間が多く、職員が上下に昇り降りして利用者へのサービス提供をしていたらと思ったが、今年度の訪問では、利用者が下と上へ自由に移動して生活していることを多く見ることができた。自分の居室は固定化しているけれど、食事の時間以外は皆で交流していて、利用者自身で幅広い空間利用をしていた。ホームの南側の外部空間を活用して、花火もしたり、食事会をする。このような屋外の行事には、ホーム同士の交流も行われる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 8年余り経過すると、ケアサービスのあり方も安定してくる。今迄構築された業務の維持と共に一つひとつのサービスの改良を進めることも大切である。</p> <p>2. 全体的に見て…: 家族との関係作りを重要視しており、新しく入所する家族との関わりは前述した通りであるが、亡くなった方の家族が機会ある毎にずっと訪れてくれるそうだ。職員が家族との心の触れ合いを大切にしていることがよく分かる。</p> <p>ターミナルに向けたケアを心掛けていることは、そのためのチームワークが、日常のケアに活かされているので、利用者一人ひとりに対する個別ケアの仕方も知らず知らずのうちに高度化した雰囲気とコミュニケーション能力を高める効果を生み出していると思う。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 運営体制全般においては、法人全体の相乗効果も発揮できているので、更に改善していかなければならない所もないと言って良い。現状の中で職員の質を高めていきながら改良を積み重ねていくよう心掛けている。</p> <p>2. 全体的に見て…: 今まで、新入職員の研修及び実習を老健等で重ねてから、グループホームにも配慮されていたが、今年度は新人の研修を終えた職員がいきなりホームに配属になった。男性が先輩職員に混じって、グループホームで活躍しているが、先輩達も新しい職員を迎える事により、却って緊張感が出て、一人の職員をここで育てていく事に新たな自己研鑽が湧いて、却って相乗効果が生まれたそうだ。良き総括管理者もできるだけミーティングにも参加してくれ、相談したい時は夕飯に誘って色々話し合い、主任や職員の意識向上に役立っているそうだ。</p>		